

図の上部には、次の文がある。

大星由良之助

坂東三津五郎

やしませてしばし

平右子門ホゝ兄弟

共に見事く

うたがひ

はれた兄ハ

あづまの供

をゆるす

妹ハながらへ未来への

追善そのついでんハ

めいどの供夫勘平連判にハ

加へしかど敵一人も討とらず未来で

主君に言分有まじ其言訳ハコリヤ寢にナ

寺岡平右子門

市川團十郎

かわいや妹そちや何にもしらぬナ

親与一兵へ殿ハ六月廿九日の夜

人に切られておはてなされた

コリヤまだびつくりすな

請出されてそわふと思ふ

勘平も腹切て死だ

ハやいヲ道理くやうすを

咄せばながい事おいたハしぬハ

母者人言出してハ泣思ひ出してハ

泣娘かるに聞したら泣死にするである

必言てくれるなどの御頼言まいとハ思へども

どふでのがれぬそちが命なら人手にかきよより

我手にかけ大事を知たる女妹逆もゆるされずと夫を

切に連判の数に入ッてお供にたゝん聞分てくれ死でくれヤイ

妹おかる

岩井彙三郎

そりやまアほんかいのふ便のないハ

身のしろをやくに立てのたび

立かいとまごひにもミへそな

物とうらんでばつかりおり

ました勿躰ないが

とく様ハひごうの

死でもお年のうへ

勘平殿ハ三十に

成やならずに

死るとハ嘸口

おしかろ逢た

かつたで有ふのに

なぜ逢せてハ下さん

せぬ親夫のせうじんさへ

しらぬわたしが身の因果何の

生ておりませうじかいした其あとて首なりと

しがひなりと功に立なら功にさんせさらはでムル兄様